

各地の話題 大 衡 村

2023年5月19日号掲載



今後の農地を守るために

大衡村松原地区に平成25年に設立された農事組合法人アグリ457の増子昭一代表理事は、組合員の高齢化が進み、農地の維持管理が難しくなることから、令和2年9月から従業員2名を採用。就業規則や賃金規程を設け、社会保険等も加入して、地域の担い手を育てている。

増子代表は「高齢化により我々では農地の維持管理がより厳しくなる。将来にかけて地域の農地を維持していくためには人を雇い、基盤を整えなければならない」と話す。

今後はより社員を増やし、5年後には株式会社化も考えているという。

同法人に雇用された菅原弘行さんは「地区に若手がおらず、現在の面積で手一杯になっているが、新たな担い手となるべく、農地の維持管理をしていきたい」と話し、同じく従業員の佐藤好文さんも「今後の会社化も見据え、担い手として農地を維持しながら食品加工なども手がけていきたい」と今後の担い手として意気込みを語る。

増子代表（中央）と佐藤さん（左）、菅原さん（右）



【記事提供】大衡村農業委員会